

■ 編集委員

池淵 研二* (委員長)

赤塚 俊隆* 伊崎 誠一* 小山 勇* 仁科 正実 町田 早苗 松下 祥* 御手洗哲也*

渡辺 修一* Chad L Godfrey (*Associate Editor 兼任, 五十音順)

■ Associate Editor

池田 正明 太田 敏男 永井 正規 萩原 弘一 (五十音順)

■ 編集後記

埼玉医科大学雑誌の編集について何度も相談に乗っていただいた山内俊雄学長が本年7月末をもって退任された。原著論文がなかなか集まらない時期が続く中で編集委員長を仰せつかり、編集委員長就任の当初から現在まで四苦八苦して編集にあたっている。そんな折に、山内学長から「学内にあるそれぞれのセンターが行っている活発な研究活動を紹介するとか、世間から注目を浴びている医学的な話題に関して学内の専門家からコメントをもらって掲載するとか、内容の充実を工夫してはどうか、そのためにはできたら季刊誌に替えていくことも考えてみたらどうか」、など、困惑している編集部に対して適切で温かいアドバイスをいただいた。

ところで、学内グラント成果報告は本誌の重要なポジションを占めているが、学内研究者へ研究費を助成する学内グラント事業も山内学長の発案によるものであった。公的研究費がもうちょっとで獲得できそうだが、まだ論文実績等がなくて取得できず困っている、ただし萌芽的で豊かなアイデアはある、という若手研究者にとって学内グラントは貴重な研究費獲得手段となり定着している。

このようにして獲得した学内グラントの成果発表会を定例で開催しているが、発表会の開会挨拶を毎回山内学長にお願いしている。そのつど、若い研究者向けの激励メッセージをいただいている。また「私はこの領域の専門家ではないので何でも質問できるのですが、的はずれだったら御免なさい。さてこのところはどうなっていますか？」と根本的なドキッとするような質問をしていただき発表会が盛り上がる。他の出席者からも質問がしやすい環境になり、質問が次々に出て司会者にとっては嬉しいが切り上げ時を見極めにくい楽しい会となっている。

これとは別の話になるが、山内学長が大学の年頭の挨拶で披露されるお話しは、なかなか聞き応えがあつて(素人の私が評価してはいけない高尚なレベルの話ですが)、いつも楽しみに聞かせていただいていた。雑誌編集のよろず相談のためお伺いした際に、余談で年頭の挨拶について私の感想を述べさせていただいた。また当時読んでいた渡辺淳一の自叙伝について話す機会があった。実は学長は渡辺淳一と同時代に北大に学ばれ、彼が主幹する同人誌に対抗して別の同人誌を発刊するほど文筆活動にのめりこんでおられた様子、それが現在の学長のお話の格調の高さに表れているんだなあと、強く感心させられた。

学長の職を離れられてもますますお忙しいことと思うが、今後とも医大雑誌とも親密なお付き合いをお願いしたいと考えている次第である。

(池淵 研二)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第38巻 第1号

編集責任者 池淵 研二

平成23年8月15日 印刷

平成23年8月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102(直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制 作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>